

◎パントシン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 パンテチン (U) pantethine 【分類】 パンテチン製剤

【単位】 ▼30mg・▼60mg・▼100mg・◎200mg/錠

【常用量】 ■30～180mg/日 ■血液疾患、弛緩性便秘には300～600mg/日 ■高脂血症には600mg/日

【用法】 分1～3 [高脂血症は分3]

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5) 【その他の報告】 HD患者に600～1200mg/日投与して血中総コレステロール、血清中性脂肪が有意に低下したが、HDL-コレステロール、Apo-Aには変化なく、副作用は全くなかった (Clin Nephrol 25: 70-74,1986)

【保存期腎不全患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 体内でcoenzyme Aとなり、細胞内で脂肪酸運搬体として作用する。リポ蛋白質代謝異常の改善及び血管壁内脂質代謝の改善がみられる。高コレステロール血症に用いる場合、単独では作用が弱いため他剤との併用が必要。

【主な副作用・毒性】 下痢、軟便、食欲不振、腹部膨満、悪心

【吸収】 吸収不良症候群を除き、胃腸管から直ちに吸収される (U)

【tmax】 8～24hr [ラット] (1)

【代謝】 パンテチン酸は代謝されない (U) 細胞内でパンテチン酸とシステアミンに分解され、一部はCoAに合成 (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率70% (U) 糞便中に30%排泄 (U) 尿中回収率20% [ラット, 24hr まで] (1)

【t1/2】 資料なし (1)

【蛋白結合率】 68～88% [ラット] (1)

【分布】 coenzyme Aとして組織に分布する (1) 肝・副腎・心臓・腎で高濃度に存在する (U)

【MW】 554.72

【透析性】 資料なし (1) 組織移行性が高いと思われる、透析性は低いと思われる (5)

【TDMのポイント】 TDMの対象にはならない 【OW係数】 資料なし (1)

【備考】 コリンのアセチル化を促進するため腸管の運動亢進による下痢、軟便が生じることがあるが、この作用を利用して高齢者の弛緩性便秘にも使用できる。

【更新日】 20120423

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。